

地区技師会との連携

江藤 芳浩

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

6月から9月にかけて大雨シーズンといわれています。特に大きな水害をもたらす局地的大雨は俗にゲリラ豪雨といわれ、小部隊で奇襲による変則的の戦闘を行うゲリラに似ていることから、気象界では1960年代から使われていたそうです。豪雨が小規模で突発かつ散発的に発生するため現状では予測が難しく、急激に発達する積乱雲は、豪雨以外にも竜巻やダウンバーストなどの突風、雷、ひょうなどを引き起こします。さらに国土の7割が山地や丘陵地である日本では、急な河川の増水や氾濫、冠水、がけ崩れなどが発生しやすいと言えます。一方、地震においては、本年3月16日に最大震度6強の福島県沖地震が発生、さらにその3カ月後の6月19日には石川県能登地方において最大震度6弱の地震が発生し、記憶に新しいところです。地震国の日本では、地震が起こらない場所はないと言っても過言ではなく、大規模地震の発生に対して、ある程度の時間と場所を限定した予測が望まれますが、現在の科学的知見からは確度の高い予測は難しいといわれています。現代科学をもってしても予測が付かない大規模自然災害に対しては、いかに被害を最小限に抑え命を守るかを考えて、日頃からの備えを怠らないことに尽きます。



医療施設においても災害対策マニュアルや事業継続計画の策定をはじめ、放射線部門においても災害対策を講じておく必要があります。本会は大規模災害が発生した場合、被災地の地区技師会に会員の被害情報の収集を依頼させていただき、被害に遭われた会員への会費免除などの手続きを行っています。また激甚災害においては要請に応じた支援や被災会員への義援金活動を行う準備を整えており、こうした災害支援活動において本会と地区技師会との連携は非常に重要です。

地区技師会との連携・協働に関する事業については、先の第84回定時総会に上程した本年度事業計画において「本会の事業運営全般について地区技師会との連携を強化し、会員へのサービスの充実、研修等の協力体制について情報共有を十分にを行い活動すること、また各地区技師会とオンライン懇談会を実施し、本会の事業と各地区の実情について情報共有を図る」として、主要な活動の一つに挙げています。特に各地区技師会とのオンライン懇談会は、交流の機会が乏しいコロナ禍において、地区技師会の声をJART事業や会務に反映する非常に重要な活動と位置付けており、地区技師会の会長、若手会員と本会会長、副会長がWebで直接意見交換を行っています。6月末時点で23地区技師会との懇談会を終了し、今後のJART運営に有意義となる多数のご意見・ご要望を頂きました。多岐にわたる話題の中で、タスク・シフト/シェアと告示研修、入会促進、e-ラーニング化推進、女性技師への対応、学術大会運営、ラダーによる新生涯教育、会費、小規模施設会員への対応、事務局運営に関するものが多数を占めますが、たった1件のご意見でも非常に貴重な情報を頂くこともあります。内容によっては懇談会の翌日から速やかに改善に取り掛かるものから、数年計画で改善するもの、残念ながら期待に沿えないご要望までさまざまですが、頂いたご意見・ご要望を真摯に受け止め、JARTの運営に反映してまいります。

職能団体の根幹である組織率向上をいかに進めるかという話題については、地区技師会とも共有し、長年の課題としているところですが、残念ながら現在までに有効な解決策や期待する成果は得られていません。近年においては、診療放射線技師の業務環境や生活スタイル、価値観の多様化、新型コロナウイルス感染症拡大が解決策をより複雑化しています。いま一度、入会促進のための方策を整理し、多角的にアプローチする体系的・持続的な取り組みを検討する必要があります。目標とする組織率70%を実現することを念頭に置き、地区技師会のお力添えを頂きながら今後も活動してまいりたいと思います。

地区技師会との連携・協働に関する事業は多岐にわたりますが、引き続き、本会事業へのご協力をよろしく願い申し上げます。